

2019. **12**  
No. **201**

# 調査レポート

## 県内勤労者の消費・貯蓄動向 ～第62回くらしのアンケートから～

---

要	約	1
1	家計の状況	3
2	今冬の買物計画	4
3	おけい事、塾・サークル	6
4	貯蓄	7
5	ローン等の利用	9
6	冬季ボーナス	10
7	お歳暮	12
8	冬休み、年末・年始の過ごし方	14

---

## 要 約

### 1. 家計の状況

- 1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が6.1%、「悪くなった」が20.2%、「変わらない」が73.7%。県内勤労者の暮らし向きは、昨冬と比べて悪化。県内景気は、回復の動きに足踏み感が窺われており、また海外経済の減速など先行き不透明感も強まっている。このようななか、消費税増税等により支出が増加する一方、勤労者の収入は伸び悩んでいることから家計の負担は増しているものと考えられる。
- 家計上の悩みは、「収入の伸び悩み」が最も多く、以下、「税金等負担増」、「物価上昇」の順。

### 2. 今冬の買物計画

- この冬購入したい商品は、「婦人服」が最多で、以下、「紳士服」、「子供服」、「スマートフォン」、「家具・インテリア」の順。
- 昨冬比で購入予定比率が上昇した品目は5品目であるが、上昇幅は小幅。一方、低下した品目は13品目。
- 購入予定先は、「一般小売店」、「インターネット通販」、「家電量販店」、「スーパー・ショッピングセンター」、「百貨店」の順。2位の「インターネット通販」は続伸。

### 3. おけいこ事、塾・サークル

- 参加したいおけいこ事や塾・サークルは、「料理」が1位で、以下、「ダンス・フィットネス等」、「ゴルフ」、「外国語会話」、「手芸・編物・着付」の順。
- 年代別では、20代では、「料理」、「ゴルフ」、30代では、「ゴルフ」、「ダンス・フィットネス等」、40代では、「ダンス・フィットネス等」、「外国語会話」、50代以

上では「ダンス・フィットネス等」、「料理」、「ゴルフ」（同順位）が人気。

### 4. 貯 蓄

- 平均保有額は551万円で、昨冬比67万円減少。
- 現在利用している金融商品は、「銀行預金」、「投資信託」、「ゆうちょ銀行貯金」の順。また、今後増やしたい商品は、「銀行預金」、「投資信託」、「個人年金」の順。
- 貯蓄する際重視する点は、「元金の保証があり安心」、「利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」の順。

### 5. ローン等の利用

- ローン等の利用者は26.6%で、平均借入額は昨冬比62万円増の1,212万円。
- 利用目的は、「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金」の順。
- 借入先は、「銀行」が最も多く、以下、「銀行以外の金融機関」、「月賦・クレジット会社」の順。

### 6. 冬季ボーナス

- 冬季ボーナスの予想は、「減りそう」が「増えそう」を上回り、両比率の差は昨冬と比べて拡大。米中貿易摩擦や消費税増税等の影響などから景気の先行き不透明感が増しており、勤労者が今冬のボーナス支給について慎重な見方をしている様子が窺われる。
- 手取り予想額は、「31～40万円」が最も多く、以下、「1～20万円」、「21～30万円」、「41～50万円」の順。
- 使いみちは、「貯蓄」が最多で、以下、「買物」、「旅行・レジャー」、「教育費」の順。

## 7. お歳暮

- お歳暮を贈る予定者は、48.5%。贈る件数は「3～5件」が最多。平均件数は3.8件で、昨冬と同水準。
- 1件あたりの単価は、「3,000円程度」が最多。平均単価は3,962円と、昨冬（4,107円）から145円低下。平均予算総額は15,075円と昨冬（15,626円）に比べて減少。
- 贈りたい商品は「ビール（含むビール券）」が最多で、以下、「ハム」、「お菓子」、「調味料」、「お茶・コーヒー」の順。

## 8. 冬休み、年末・年始の過ごし方

- 「特に予定なし」を除くと、「日帰り旅行」が最多で、以下、「帰省」、「国内宿泊旅行」、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」の順。昨冬と比較すると、「特に予定なし」、「帰省」などが上昇した一方、「日帰り旅行」、「国内宿泊旅行」、「海外旅行」などは低下。
- 国内宿泊旅行の宿泊数をみると、「1泊」が最も多く、以下、「2泊」、「3泊」の順。

### ● 調査実施要領

調査対象：県内の勤労者 1,088 名

調査方法：当行の営業店を通じ対象者に依頼

回答者数：1,054 名（回答率 96.9%）

調査時期：2019 年 10 月上旬～10 月下旬

### 〈 回 答 者 内 訳 〉

内訳	項目	回答者数	構成比
年代別	20代	239人	22.7%
	30代	263	25.0
	40代	248	23.5
	50代以上	303	28.7
家族	既婚	670	63.6
	未婚	382	36.2
性別	男性	469	44.5
	女性	584	55.4
合計		1,054	100.0

※ 合計には年代等未回答者を含む

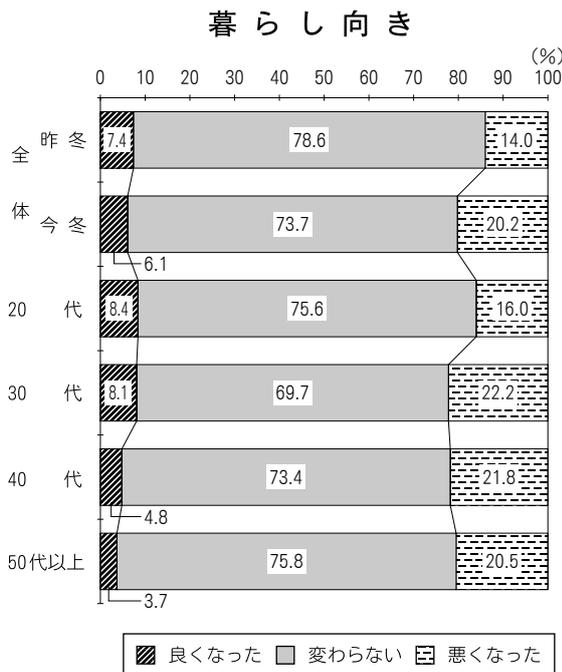
# 1 家計の状況

## 暮らし向きは昨冬に比べて悪化

1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が6.1%、「悪くなった」が20.2%、「変わらない」が73.7%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△14.1と、昨冬(△6.6ポイント)と比べて7.5ポイント悪化した。

県内景気は、回復の動きに足踏み感が窺われており、また海外経済の減速など先行き不透明感も強まっている。このようななか、消費税増税等により支出が増加する一方、勤労者の収入は伸び悩んでいることから家計の負担は増しているものと考えられる。

年代別にみると、「悪くなった」の回答比率が最も高かったのは30代(22.2%)で、以下、40代(21.8%)、50代以上(20.5%)、20代(16.0%)と続いた。

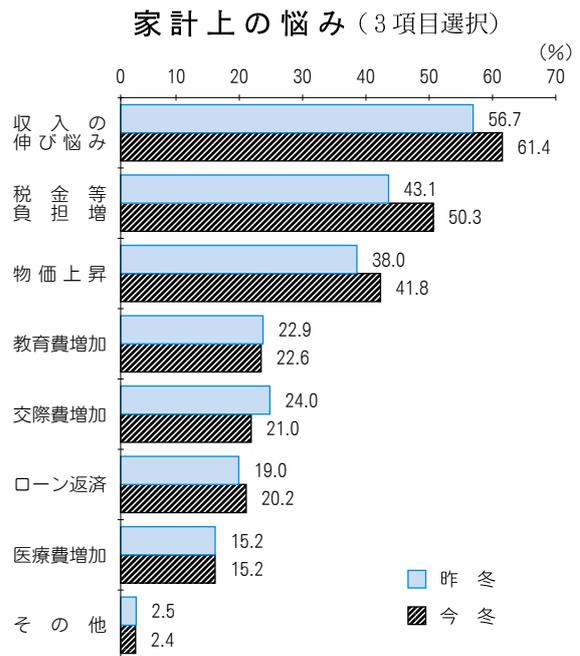


## 家計上の悩みは「収入の伸び悩み」が最多

家計上の悩み(3項目選択)は、「収入の伸び悩み」が最も多く、以下、「税金等負担増」、「物価上昇」と続いた。

1位の「収入の伸び悩み」は、回答比率が昨冬の56.7%から61.4%へと4.7ポイント上昇しており、厳しい所得環境が続いている状況を裏付けている。また、2位の「税金等負担増」および3位の「物価上昇」も、昨冬と比較して各々7.2ポイント、3.8ポイント上昇した。消費税増税と、それに伴う物価の上昇が家計に負担感をもたらしている状況が窺われる。

その他の項目をみると、「交際費増加」、「教育費増加」が低下した一方、「ローン返済」、「その他」は上昇した。



## 2 今冬の買物計画

### 今冬の消費マインドはやや弱含み

この冬購入したい商品（20品目について複数回答）は、「婦人服」が最多で、以下、「紳士服」、「子供服」、「スマートフォン」、「家具・インテリア」と続いている。1位から4位までは昨冬から順位の変動がなかった。

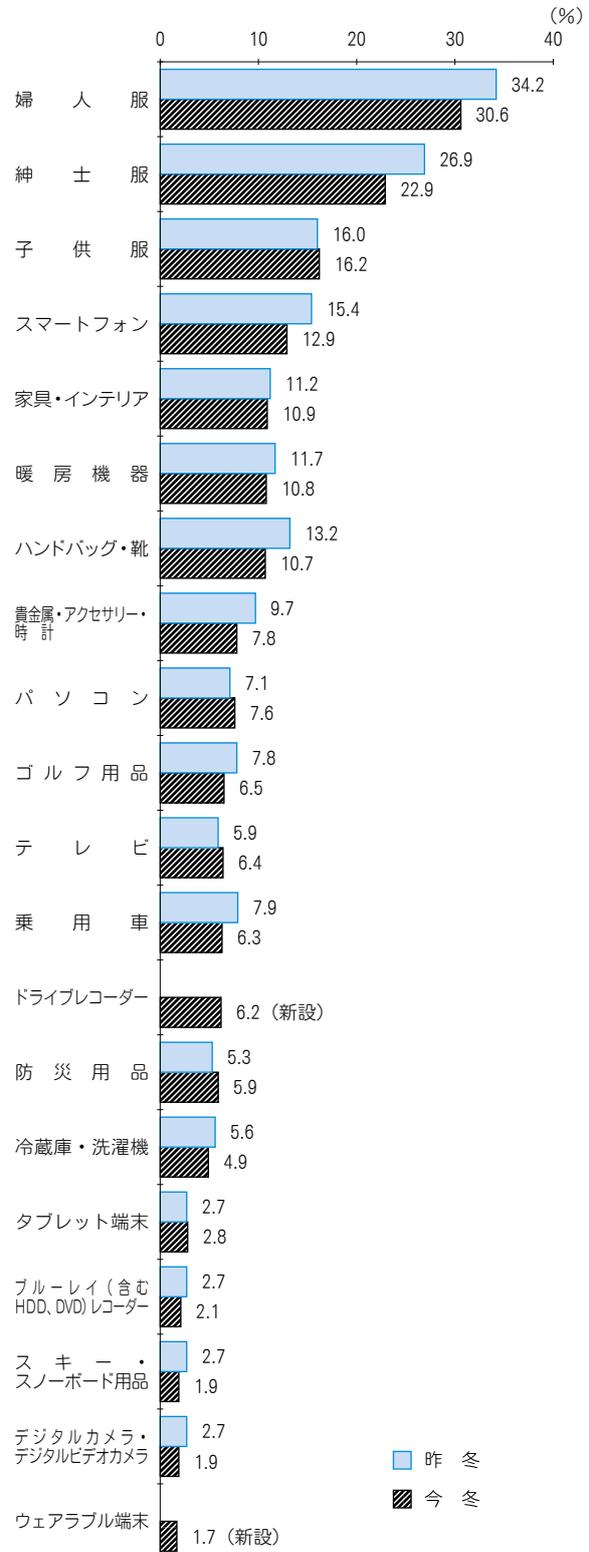
昨冬と比べて購入予定比率が上昇した品目は「子供服」、「パソコン」、「テレビ」、「防災用品」、「タブレット端末」の5品目（昨冬9品目）であった。ただし、上昇幅はいずれも1ポイント未満と小幅にとどまっており、勤労者の生活実感が厳しさを増しているなかで、消費税増税の影響もあり、消費マインドがやや弱含んでいる様子が窺われる。

なお、新設品目である「ドライブレコーダー」と「ウェアラブル端末」は、それぞれ13位、20位となっている。

### 衣料品や嗜好品、高額品の購入予定が低下

購入予定比率が低下した品目は、「婦人服」、「紳士服」、「スマートフォン」、「家具・インテリア」、「暖房機器」、「ハンドバッグ・靴」、「貴金属・アクセサリー・時計」、「ゴルフ用品」「乗用車」、「冷蔵庫・洗濯機」などの13品目（昨冬10品目）となった。このうち「紳士服」、「婦人服」といった衣料品や「ハンドバッグ・靴」、「貴金属・アクセサリー・時計」、「乗用車」、「ゴルフ用品」などの嗜好品や高額品で比較的大きめの下落幅となった。

主要商品の購入予定状況（複数回答）



## 購入予定先はインターネットが2位

この冬購入したい商品の購入予定先（複数回答）は、「一般小売店」が最も多く、以下、「インターネット通販」、「家電量販店」、「スーパー・ショッピングセンター」、「百貨店」、「ホームセンター」、「通信販売」、「その他」の順となった。

昨冬と比較すると「百貨店」、「スーパー・ショッピングセンター」、「一般小売店」で比率が低下した一方、「家電量販店」、「ホームセンター」、「インターネット通販」、「通信販売」は

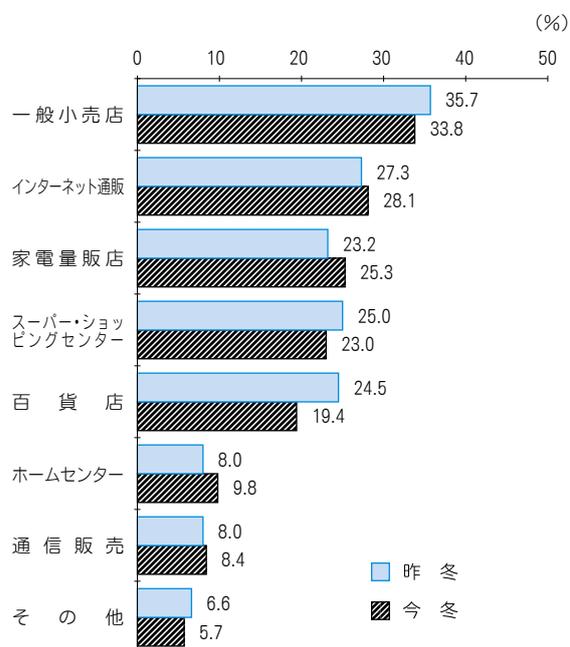
上昇した。

今回調査においては、「インターネット通販」が昨冬に引き続き2位となっており、比率も28.1%と過去最高を更新している。スマートフォンの普及等を背景に、インターネットが買い物の手段として広く定着してきていることを裏付ける結果となった。なお、県内百貨店の閉店もあり、「百貨店」の比率が昨冬の24.5%から19.4%と5.1ポイント低下した。

## 今冬購入予定の商品ベスト5

	全 体	20 代	30 代	40 代	50 代 以 上
1 位	婦 人 服	婦 人 服	婦 人 服	婦 人 服	婦 人 服
2 位	紳 士 服	紳 士 服	子 供 服	子 供 服	紳 士 服
3 位	子 供 服	スマートフォン	紳 士 服	紳 士 服	暖房機器
4 位	スマートフォン	貴金属・アクセサリー・時計	家具・インテリア	暖房機器	ハンドバッグ・靴
5 位	家具・インテリア	ハンドバッグ・靴	スマートフォン	スマートフォン	家具・インテリア、パソコン（同順位）

## 購入予定の店舗（複数回答）



### 3 おけいこ事、塾・サークル

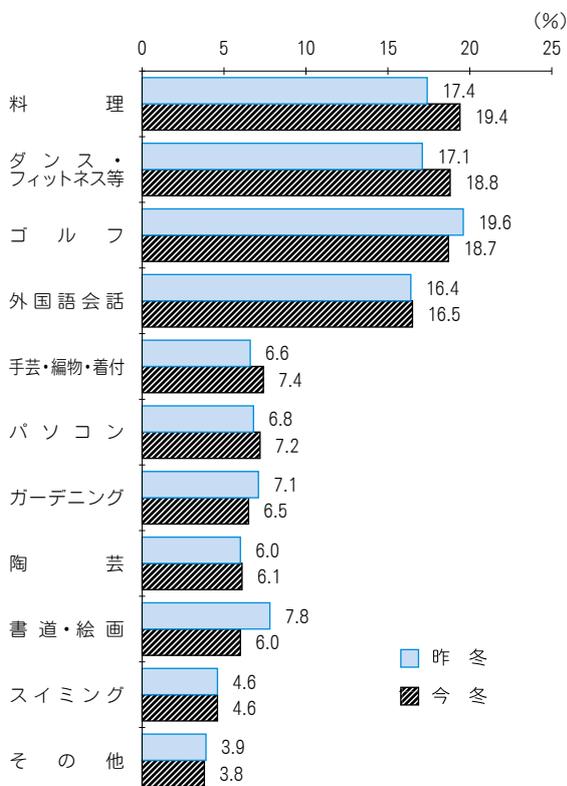
#### 参加したいおけいこ事は「料理」が1位

参加したいおけいこ事や塾・サークル（複数回答）は、「料理」が1位となり、以下、「ダンス・フィットネス等」、「ゴルフ」、「外国語会話」、「手芸・編物・着付」の順となった。昨冬と比較すると、「料理」が2位から1位へ、「ダンス・フィットネス等」が3位から2位へと順位を上げた一方、「ゴルフ」が1位から3位に後退した。また、「手芸・編物・着付」（8位→5位）、「パソコン」（7位→6位）、「陶芸」（9位→8位）がそれぞれ順位を上げた一方、「ガーデニング」（6位→7位）、「書道・絵画」（5位→9位）は順位を下げた。

昨冬と比べて人気上昇したのは、「料理」、「ダンス・フィットネス等」、「手芸・編物・着付」、「パソコン」、「外国語会話」、「陶芸」であった。一方、低下したのは、「書道・絵画」、「ゴルフ」、「ガーデニング」であった。

年代別に人気の高い項目をみると、20代では、「料理」、「ゴルフ」、30代では、「ゴルフ」、「ダンス・フィットネス等」、40代では、「ダンス・フィットネス等」、「外国語会話」、50代以上では「ダンス・フィットネス等」、「料理」、「ゴルフ」（同順位）となっている。

やってみたいおけいこ事、塾・サークル  
（複数回答）



やってみたいおけいこ事、塾・サークル  
（複数回答）

	全体 (%)	20代 (%)	30代 (%)	40代 (%)	50代以上 (%)
料理	19.4	30.5	20.5	15.7	12.5
ダンス・フィットネス等	18.8	16.7	20.9	21.4	16.5
ゴルフ	18.7	23.8	23.6	16.1	12.5
外国語会話	16.5	22.2	17.9	16.5	10.9
手芸・編物・着付	7.4	5.0	4.9	7.7	11.2
パソコン	7.2	7.9	5.7	9.3	6.3
ガーデニング	6.5	2.9	6.8	5.2	9.9
陶芸	6.1	2.9	6.1	5.2	9.2
書道・絵画	6.0	3.3	3.4	4.4	11.6
スイミング	4.6	2.1	6.8	2.8	6.3
その他	3.8	2.1	4.2	3.6	5.0

## 4 貯蓄

### 平均貯蓄額は551万円

現在の貯蓄額の分布をみると、「100万円以下」が最も多く、以下、「101万円～200万円」、「201万円～300万円」、「401万円～500万円」の順となった。

また、平均貯蓄額は551万円で、昨冬（618万円）に比べて67万円減少した。

年代別の平均貯蓄額をみると、20代が172万円（昨冬比△1万円）、30代が393万円（同+10万円）、40代が607万円（同△38万円）、50代以上が942万円（同△214万円）となっている。

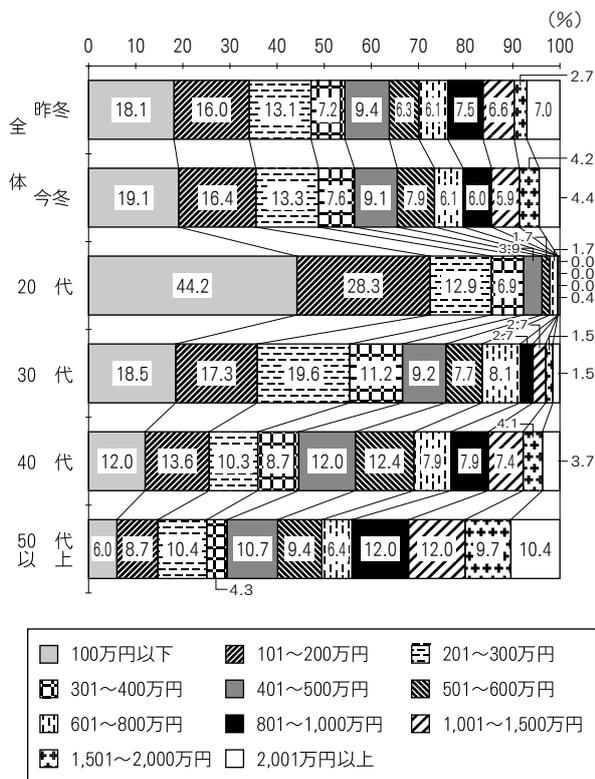
### 利用金融商品の最多は「銀行預金」

利用している金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が94.7%と最も多く、以下、「投資信託」、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」、「個人年金」、「財形預金」の順となった。

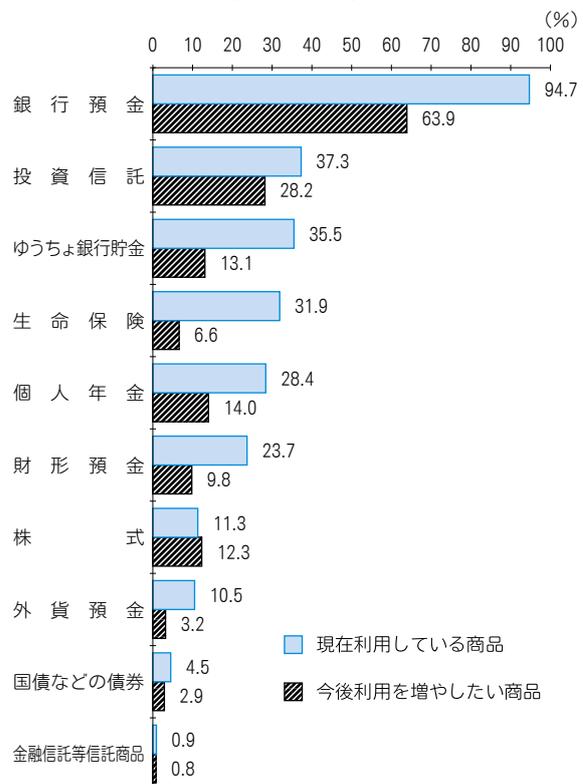
昨冬と比較すると、「投資信託」（昨冬+6.0ポイント）の利用率が大きく上昇した一方で、「ゆうちょ銀行貯金」（同△3.6ポイント）、「株式」（同△3.3ポイント）などは低下した。

年代別に利用率をみると、「銀行預金」はすべての年代で90%超となっている。「ゆうちょ銀行貯金」、「国債などの債券」、「株式」、「生命保険」は年代が高くなるに連れて利用率が上昇している一方、「財形預金」、「外貨預金」は年代が低いほど利用率が高くなっている。また、昨冬と比較すると、「投資信託」がすべての年代で利用率が上昇している一方、「ゆうちょ銀行貯金」、「株式」、「金銭信託等信託商品」はすべての年代で利用率が低下している。

現在の貯蓄額



金融商品の利用（複数回答）



## 増やしたい金融商品は「投資信託」が上昇

今後増やしたい金融商品（複数回答）は、1位が「銀行預金」で、以下、「投資信託」、「個人年金」、「ゆうちょ銀行貯金」と続いた。

昨冬と比較すると、「投資信託」（昨冬比+7.2ポイント）、「銀行預金」（同+1.7ポイント）、「個人年金」（同+1.5ポイント）などで比率が上昇した。一方、「株式」（同△1.6ポイント）、「金銭信託等信託商品」（同△0.9ポイント）などで比率が低下した。

年代別にみると、各年代とも1位が「銀行預金」、2位が「投資信託」となっている。また、昨冬と比較すると、「投資信託」、「金銭信託等信託商品」はすべての年代で上昇した。

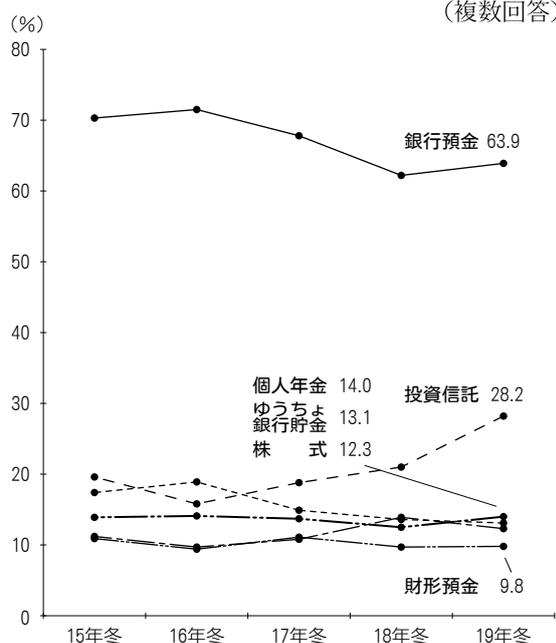
## 収益性を重視する傾向

貯蓄をする際、重視する点（3項目選択）は、「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」、「値上がり期待できる」、「利用金融機関が自宅から近い」の順となった。

各項目の比率を昨冬と比較すると、「利回りが良い」が46.7%から49.9%と3.2ポイント上昇した。利用金融商品・増やしたい金融商品でも「投資信託」の比率が上昇しており、収益性を重視する傾向が窺われた。一方、「利用金融機関のサービスが良い」、「利用金融機関に友人、知人がいる」、「利用金融機関が集金にきてくれる」などが低下した。

上位項目を年代別にみると、「元金の保証があり安心」は各年代ともにトップとなっているが、20代は54.4%と比較的低くなっている。昨冬と比較すると、30代では「利回りが良い」の上昇が、40代以上では「元金の保証があり安心」の上昇が目立っている。

今後利用を増やしたい金融商品の推移  
(複数回答)



貯蓄する際重視する点（3項目まで選択）  
(%)

	全体	20代	30代	40代	50代以上	昨冬順位
元金の保証があり安心	62.9	54.4	61.2	64.9	69.3	1
利回りが良い	49.9	49.8	55.5	45.6	48.8	2
預け入れ引き出しが自由	45.2	49.0	46.4	41.1	44.6	3
値上がり期待できる	27.6	32.2	33.1	24.6	21.8	4
利用金融機関が自宅から近い	17.8	16.3	16.3	18.1	20.1	5
利用金融機関のサービスが良い	12.7	13.4	10.6	15.7	11.6	6
勤務先が利用金融機関と取引している	6.6	5.4	9.1	7.3	5.0	7
利用金融機関が勤務先から近い	5.5	4.2	6.5	6.0	5.3	9
利用金融機関に友人、知人がいる	4.1	4.2	3.4	4.0	4.6	8
利用金融機関が集金にきてくれる	1.3	0.0	0.8	2.0	2.3	10
その他	0.3	1.3	0.0	0.0	0.0	-

## 5 ローン等の利用

### 平均借入額は1,212万円

ローン等の利用状況を見ると、利用者は26.6%で、平均借入額は1,212万円となった。

利用目的（複数回答）は、「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金」と続いた。

昨冬と比較すると、平均借入額は62万円増加したが、利用者の比率は1.3ポイント低下した。また、利用目的では、「土地・住宅の購入」、「財テク資金」、「旅行・レジャー」、「その他」、「教育資金以外の生活資金」の比率が上昇した反面、「自動車・家電品の購入」、「教育資金」は低下した。

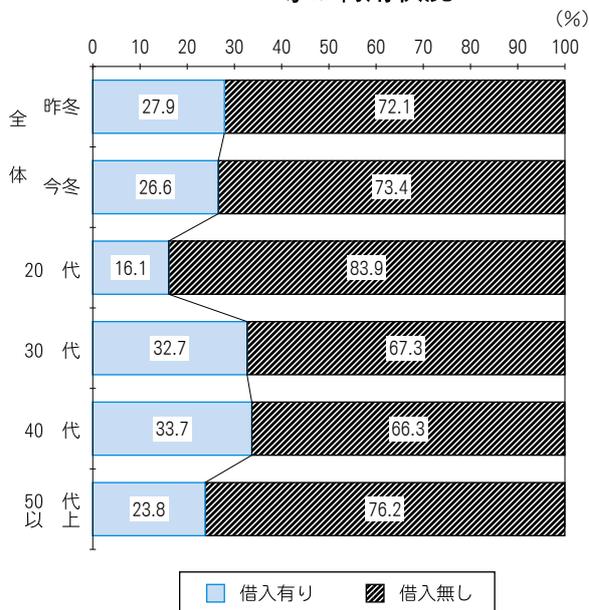
一方、借入先（複数回答）は、「銀行」が最も多く、以下、「銀行以外の金融機関」、「月賦・クレジット会社」の順となった。昨冬と比較すると、「銀行」、「勤務先」、「その他」、「銀行以外の金融機関」の比率が上昇した一方、「月賦・クレジット会社」、「政府系金融機関」は低下した。

これらを年代別にみると、ローン利用者はマイホーム需要が高まる40代が最も多く、以下、30代、50代以上、20代の順となっており、平均借入額は、20代329万円、30代1,508万円、40代1,498万円、50代以上979万円となった。

また、利用目的は、20代で「自動車・家電品の購入」、30代以上で「土地・住宅の購入」がそれぞれ最多となっている。

なお、借入先は、すべての年代で「銀行」が1位となっているが、2位は20代と50代以上で「銀行以外の金融機関」、30代で「銀行以外の金融機関」・「月賦・クレジット会社」（同順位）、40代で「月賦・クレジット会社」となっている。

ローン等の利用状況



ローン等の借入先・利用目的

(複数回答)

(%)

		全体	20代	30代	40代	50代以上
利 用 目 的	土地・住宅の購入	63.4	15.8	60.7	84.1	68.1
	自動車・家電品の購入	26.8	57.9	22.6	20.7	22.2
	教育資金	8.7	13.2	7.1	8.5	8.3
	旅行・レジャー	5.1	10.5	4.8	3.7	4.2
	教育資金以外の生活資金	3.3	0.0	4.8	2.4	4.2
	財テク資金	1.4	0.0	2.4	0.0	2.8
	その他	3.3	5.3	6.0	1.2	1.4
借 入 先	銀行	66.7	60.5	69.0	73.2	59.7
	銀行以外の金融機関	12.3	15.8	10.7	9.8	15.3
	月賦・クレジット会社	11.6	10.5	10.7	13.4	11.1
	住宅金融支援機構等 政府系金融機関	6.5	0.0	4.8	8.5	9.7
	勤務先	1.4	0.0	0.0	2.4	2.8
	その他	5.1	13.2	6.0	4.9	0.0

## 6 冬季ボーナス

### 手取り額予想は減額が増額を上回る

昨冬と比べた今冬のボーナス（手取り額）の予想は、「増えそう」が7.9%、「減りそう」が33.4%となり、引き続き「減りそう」が「増えそう」を上回った。

両比率の差（「増えそう」－「減りそう」）は、△25.5と昨冬の△14.6から10.9ポイント悪化した。米中貿易摩擦等の通商問題および消費税増税の影響などから景気の先行き不透明感が増しており、勤労者は今冬のボーナス支給について慎重な見方をしている様子が窺われる。

年代別にみると、すべての年代で「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回った。昨冬との比較では、すべての年代で「減りそう」の回答比率が上昇しており、特に20代で8.3ポイント、30代で11.4ポイントの大幅な上昇となっている。

### 平均手取り予想額は36万8千円

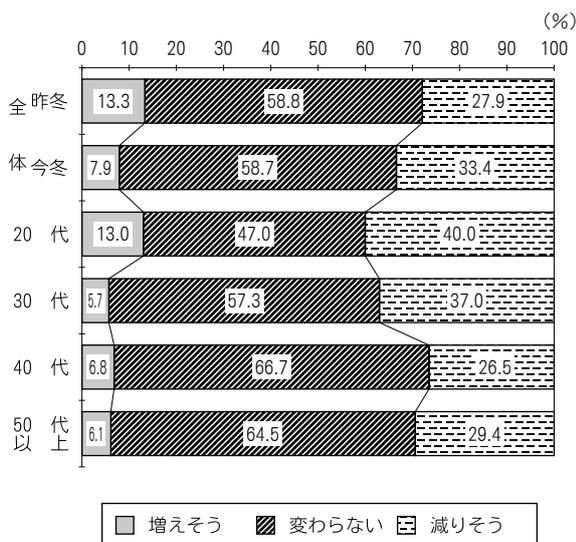
手取り予想額は、「31～40万円」が最も多く、以下、「1～20万円」、「21～30万円」、「41～50万円」の順となった。

昨冬と比較すると、「31～40万円」、「1～20万円」、「21～30万円」の比率が上昇、「71～100万円」、「41～50万円」、「101万円以上」、「51～70万円」の比率が低下した。

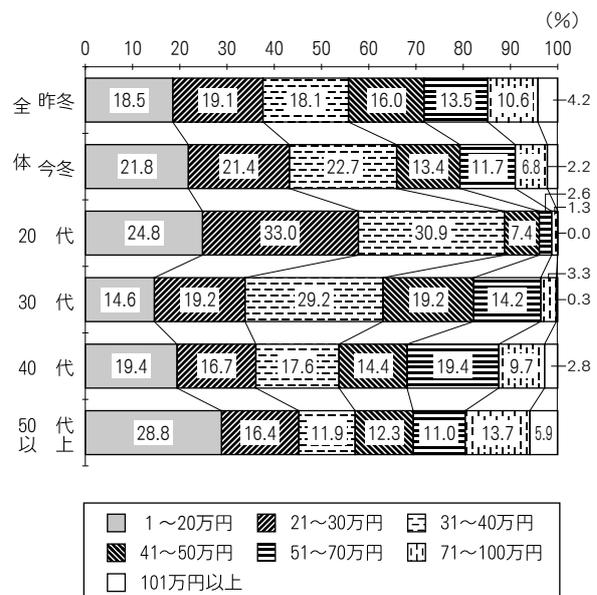
この結果、平均手取り予想額は36万8千円と、昨冬（41万8千円）に比べて5万円の減少となった。

年代別にみると、20代が27万5千円（昨冬29万1千円）、30代が36万9千円（同42万4千円）、40代が41万7千円（同47万7千円）、50代以上が41万4千円（同51万円）で、昨冬比では各々1万6千円、5万5千円、6万円、9万6千円の減少となった。

冬季ボーナス増減予想



ボーナス手取り予想額



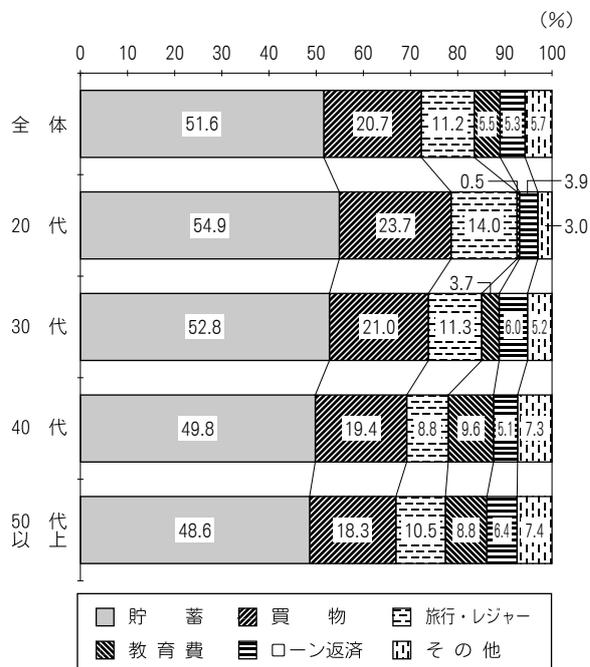
## 「貯蓄」の配分比率がトップ

ボーナスの使いみちは、「貯蓄」の比率が最も高く、次いで「買物」、「旅行・レジャー」、「教育費」となった。

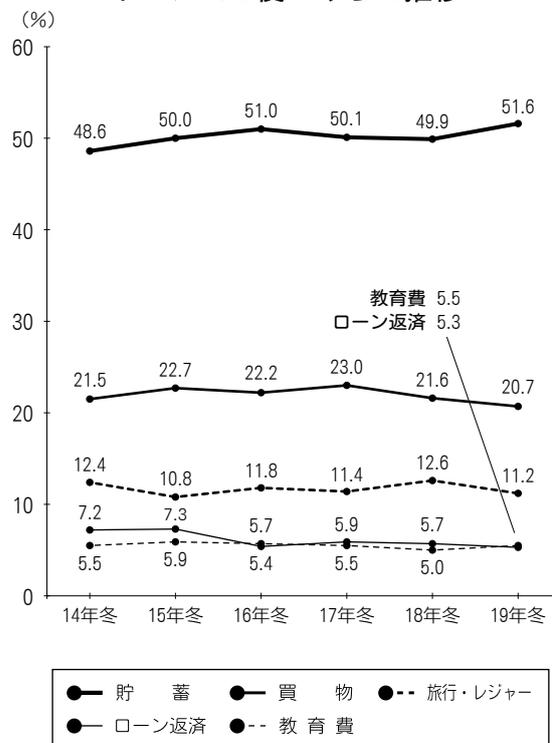
昨冬と比較すると、「貯蓄」、「教育費」の比率が上昇した一方で、「旅行・レジャー」、「買物」、「ローン返済」の比率は低下した。なお、「貯蓄」への配分割合はやや増加し、5割を超えている。

年代別にみると、各年代とも1位、2位は「貯蓄」、「買物」の順となったが、3位は20代、30代、50代以上が「旅行・レジャー」、40代が「教育費」となった。昨冬と比較すると、すべての年代で「買物」が低下している。「買物」以外では、20代で「貯蓄」の上昇、30代で「旅行・レジャー」の低下、40代で「教育費」の上昇、「旅行・レジャー」の低下、50代以上で「ローン返済」の上昇が各々目立っている。

## ボーナスの使いみち



## ボーナスの使いみちの推移



## 7 お歳暮

### 贈る予定のある人の割合が低下

今冬、お歳暮を贈る予定のある人は48.5%で、昨冬（50.9%）と比べて2.4ポイント低下した。

贈る件数は「3～5件」が最も多く、以下、「2件以下」、「6～9件」、「件数未定」、「10件以上」の順となった。昨冬と比較して「6～9件」などが低下した一方、「10件以上」がわずかに上昇し、平均贈答件数は3.8件（昨冬3.8件）と、昨冬と同水準になった。

年代別にみると、贈る予定のある人の比率は20代が18.8%、30代が39.9%、40代が55.1%、50代以上が73.8%となった。昨冬と比較して20代が微増したほかはすべての年代で低下し、最も低下幅が大きかったのは40代（昨冬比△5.3ポイント）であった。

また、贈る件数は、20代、30代では「2件以下」が、40代、50代以上では「3～5件」がそれぞれ最も多くなっており、年代別の平均贈答件数は、20代が2.8件、30代が3.3件、40代が3.8件、50代以上が4.1件となっている。

### 平均単価は3,962円、平均予算は15,075円

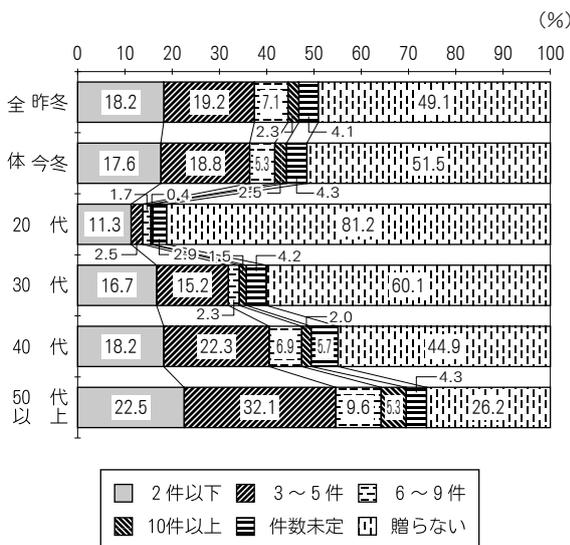
1件あたりの単価は、「3,000円程度」が50.7%と最も多く、次いで「5,000円程度」が37.1%となっており、3期ぶりに1位と2位の価格帯が入れ替わった。

昨冬と比較すると、「2,000円程度」、「3,000円程度」などの比率が上昇した一方、「5,000円程度」などの比率が低下しており、平均単価は3,962円と、昨冬（4,107円）と比べて145円低下し、4千円を割り込んだ。

このように、平均贈答件数が昨冬と同水準になったものの、平均単価は低下したことから、平均予算総額は15,075円と昨冬（15,626円）に比べて551円減少した。

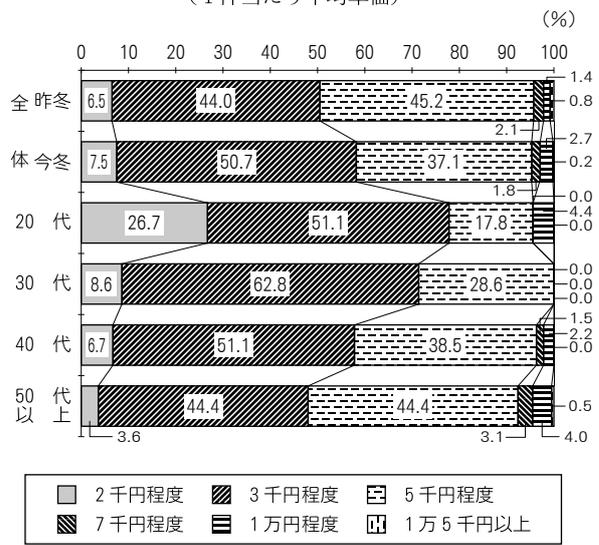
なお、年代別の平均単価は、20代が3,397円、30代が3,489円、40代が3,917円、50代以上が4,301円となっており、また、平均予算総額は、各々9,526円、11,530円、14,904円、17,655円となった。

### お歳暮を贈る件数



### お歳暮の相場

(1件あたり平均単価)



## ビールが引き続きトップ

お歳暮に贈りたい商品（5品目まで選択）は、「ビール」（含むビール券、以下同じ）が最多で、以下、「ハム」、「お菓子」、「調味料」、「お茶・コーヒー」の順となった。昨冬と比較すると上位3品目、及び下位5品目は同順位となっているものの、4位から15位までのうち11品目で順位が変動した。

支持率をみると、上昇した品目は11品目で、「お茶・コーヒー」（昨冬比+5.9ポイント）、「ハム」（同+2.5ポイント）、「ビール」（同+2.3ポイント）の上昇が目立った。一方、低下した品目は9品目で「食用油」（同△3.8ポイント）、「お菓子」（同△3.0ポイント）、「日本酒」（同△2.6ポイント）などの低下が目立った。

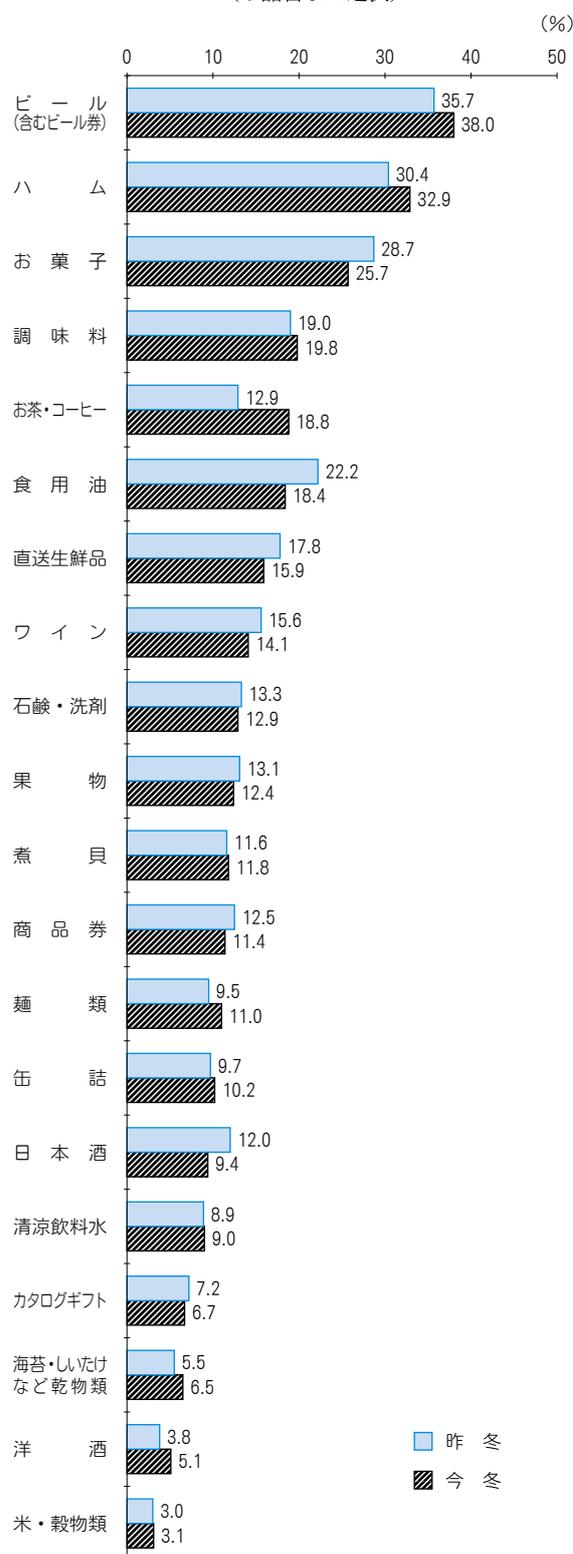
年代別にみると、20代、30代、40代で「ビール」、50代以上で「ハム」が1位となっている。支持率を昨冬と比べると、20代で「調味料」の上昇および「ビール」の低下、30代と40代では「お茶・コーヒー」の上昇、50代以上では「ハム」の上昇がそれぞれ目立っている。

## お歳暮に贈りたい商品ベスト5

順位	20代	30代	40代	50代以上
1	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)	ハム
2	調味料	ハム	ハム	ビール (含むビール券)
3	お菓子	お菓子	お菓子	お菓子
4	ハム、 食用油、 ワイン (同順位)	調味料	お茶・ コーヒー	直送生鮮品
5		お茶・ コーヒー	食用油	調味料、 お茶・コーヒー (同順位)

## お歳暮に贈りたいもの

（5品目まで選択）



## 8 冬休み、年末・年始の過ごし方

### 旅行の回答割合が低下

冬休み、年末・年始の過ごし方（複数回答）は、「日帰り旅行」が28.2%を占め最多となり、以下、「帰省」、「国内宿泊旅行」、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」の順となった。なお、「特に予定なし」は、40.5%となっている。

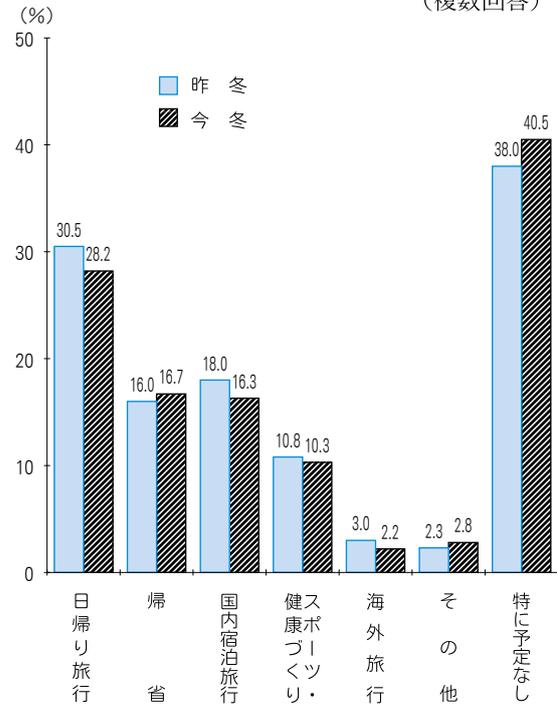
昨冬と比較すると、「特に予定なし」（昨冬比+2.5ポイント）、「帰省」（同+0.7ポイント）などが上昇した一方、「日帰り旅行」（同△2.3ポイント）、「国内宿泊旅行」（同△1.7ポイント）、「海外旅行」（同△0.8ポイント）などは低下した。

年代別にみると、20代では「日帰り旅行」、30代以上では「特に予定なし」が最多となっている。昨冬と比較すると、20代、30代では「日帰り旅行」の低下、40代では「国内宿泊旅行」の低下、50代以上では「予定なし」の上昇が目立っている。

「国内宿泊旅行」の宿泊日数をみると、「1泊」が59.3%を占め、以下、「2泊」（38.9%）、「3泊」（1.9%）の順となった。昨冬と比較すると、「1泊」、「2泊」が増加した一方、「3泊」が減少した結果、平均宿泊日数は1.4泊となり、昨冬（1.5泊）をわずかに下回った。

### 冬休み、年末・年始の過ごし方

（複数回答）



暮らし向きの悪化やボーナス受給金額の減少が見込まれるなか、消費者の節約傾向が強まった結果、「特に予定なし」の増加や宿泊日数の減少につながったものとみられる。

### 冬休み、年末・年始の過ごし方（複数回答）

(%)

	日帰り旅行	帰省	国内宿泊旅行	スポーツ・健康づくり	海外旅行	その他	特に予定なし
20代	36.4	14.6	18.4	11.3	3.3	2.1	34.3
30代	27.8	21.7	21.3	12.2	1.9	2.7	35.4
40代	27.8	20.6	12.1	10.9	2.4	4.0	36.7
50代以上	22.4	10.6	13.5	7.6	1.3	2.6	53.1
全体	28.2	16.7	16.3	10.3	2.2	2.8	40.5

あなたにピッタリのコースで資産づくりを応援します!

# 資産づくり応援! キャンペーン

2019年12月1日(日)~2020年4月30日(木)

**対象** 対象商品をご契約(預入)いただいた個人のお客さま(新規または増額の契約(預入)を対象とさせていただきます)



平野美宇選手(日本生命)

合計先着 **4,500**名様にお好きな商品を一ツプレゼント!

オープン対応  
耐熱ガラス皿



伸びる!曲がる!  
マイクロファイバーモップ  
(色は4種類)



ラージ  
クールバッグ  
(柄は2種類)



●インターネットでご契約いただいたお客さまは、窓口までお申し出いただけますよう、お願いいたします。  
●キャンペーン期間中、景品はお一人さまおひとつとさせていただきます。  
(柄は品切れによりご希望にそえない場合がございます)

株式会社山梨中央銀行 / 登録金融機関 関東財務局長(登金)第41号 / 加入協会 日本証券業協会

銀行公式お金管理アプリ  
「Wallet+」【ウォレットプラス】  
ダウンロードはこちら



皆さまに役立つ情報を  
いち早くお届けします。

LINE@

×  
@yamanashibank



店頭またはATMコーナーに、  
くわしいキャンペーン内容を記載した  
リーフレットをご用意しております。

くわしくは山梨中央銀行の窓口 または フリーダイヤルへどうぞ  
ふ れ あ い ハ ロ ー に

☎ **0120-201862** 照会コード **9**

(受付時間)月曜日~金曜日 9:00~17:00(ただし、祝日・12/31~1/3は除きます。)

山梨中央銀行

<https://www.yamanashibank.co.jp/>

(2019年12月1日現在)